吉田 知弘（よしだ ともひろ）

ヨシダキカク 代表
萩市インキュベーションセンター 管理責任者

06 -北部-

応募のきっかけは？

アパレル業界で働いていたとき、「服を売るだけでなく、いろんなことをやってみたい！」と考え退職しました。趣味が登山だったこともあり、長野県の山小屋で4ヵ月働いた後、職業訓練校に入校しました。その時、友人から協力隊の制度を教えてもらったことがきっかけです。

着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

着任後のイメージは正直曖昧だったが、3年あればなんとかなると思っていました。協力隊は出口が曖昧なため、卒業後どうなるかという不安は常に感じていました。

隊員時代の思い出を教えてください

まんべんなく地域のお店等に立ち寄り、世間話を通じてつながりが広がり、自然とネットワークができていきました。初対面では、いきなり自分のやりたいことを提案せず、足を運び、相手方の商品・サービスに対価（お金）を払うことで、徐々に関係・信用が得られたのかなと思っています。

協力隊の活動として、自分のやりたいこと、行政のやりたいこと、地域のやりたいことの3つのバランスをとることが重要です。行政や地域の声に耳を傾けながら、自分のやりたいことを徐々に話していきました。

萩市インキュベーションセンターにて

困難な場面に遭遇したとき、どう乗り越えましたか？

何かやろうとする際には、小さなことでも、必ず行政や地域の関係者等に相談するようにしました。それは細かいことなので面倒だったりしますが、実は近道で、スムーズに物事が運ぶことが多かったように思います。みんな本当に良い人なので、やり方を教えてくれたり、人を紹介してくれたり、親身になってくれました。

現在、そしてこれからについて

地域の方々のイベント企画のサポートをしたり、事業者さんの新店舗オープンに向けて方向性を一緒に考えるプランニングのような仕事をしています。また、一棟貸しの古民家の管理を任されており、地域の方の力を借りて掃除等の作業をしてもらっています。

これから、萩市インキュベーションセンター業務の実績をまとめて、自分のやりたいこと、行政が求めていること、萩に必要なことを提案していきたいです。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

地域にはたくさんの光る資源が眠っていて、世界のどこかの誰かがそれを求めています。地域や行政の方たちと一緒に掘り起こし、磨いて、その人たちを楽しませましょう！

吉田 知弘（よしだ ともひろ）さん

協力隊として

| 着 任 地 | 萩市
| 活動期間 | 2016年12月～2019年11月
| 活動内容 | 夏みかんの振興、農家民泊や移住定住の推進等

現在の仕事

ヨシダキカク 代表、
萩市インキュベーションセンター 管理責任者

| ホームページ |
https://r.goope.jp/hama-incu

隊員時代：イベント会場

吉田さんのあゆみ

- 2016.05 初めて萩を訪問
- 2016.12 協力隊着任
- 2017.07 飲食ブースとしてイベント出店
- 2017.09 イベント「ヨシダズナイト」を企画
- 2018.02 市役所と移住ツアーを企画
- 2018.05 マルシェを企画
- 2018.08 ビジネスプランコンテストに出場（山口県主催）
- 2019.04 萩市インキュベーションセンター業務委託の受託決定
- 2019.11 協力隊卒業